

第146回 岐阜歯科学会例会

と き 平成15年2月22日(土)午後1時30分より
ところ 朝日大学1号館3階 第1大講義室

特別講演

座長 可児 徳子教授

1. 岐阜県の歯科事情

岐阜県歯科医師会常務理事

口腔保健事業部部長

阿部 義和先生

社団法人・岐阜県歯科医師会(以下県歯と略称・県下唯一の歯科専門団体)は、平成14年度から朝日大学(県下唯一の歯科医師教育機関かつ歯科学研究機関)の歯学会(岐阜歯科学会)との提携により、それぞれが主催する学術講演会に両者の会員の自由な聴講を認めることにした。

県歯では学術講演会のみならず歯科医療、医業に関連する広範囲なジャンルの講演会を開催しており、一方、朝日大学の歯学会も大学歯学会として臨床・教育・研究の趣旨に沿った講演会が開催されている。この提携により、県歯の会員にとっては、最新の歯科学情報を得られる機会の増加というメリットが生じ、また朝日大学の歯学会にとっても、専門領域以外の歯科医療、医業の歯科学情報を得ることができるメリットができた。

さらには学術講演会の聴講を卒後研修の一つとすれば、卒後研修の充実を図ることにつながり、また講演会の参加者は岐阜県内の大多数の歯科医師が対象となるため、岐阜県民にとっても、より最新でしかも現在推奨されるEBMに基づく医療の提供を受けられるというメリットが生じる。このように様々な効果が期待できるこの提携を記念すべき講演会で県歯を代表して「岐阜県の歯科事情」というテーマでお話をさせていただく機会を与えられたことを光栄に思う。

私が大学を卒業した1972年ころは、戦後の復興が一段落し、公的医療保険制度が国民に定着し、歯科受診者が急激に増加した時期であった。歯科診療所の待合室には患者があふれ、「歯科医師が患者を選ぶ時代」であった。歯科医師の不足と差額診療が大きな社会問題となった時期でもあった。その後、歯科大学の新設ラッシュがあり、30年を経た現在では歯科医師の過剰、「患者が歯科医師を選ぶ時代」になり、隔世の感がある。また同時に、臨床の現場では①疾病構造の変化や健康思想の変化に伴う医療保健政策の変化②修復医療から予防医療へと医療の質が変化③患者のニーズの多様化④患者の権利の尊重—など、歯科医療提供のあり方の急激な変化が見られている。

今回のテーマ「岐阜県の歯科事情」では、

1) 岐阜県の歯科医療・医業事情

2) 医療制度抜本改革

3) 県歯の目指す方向

の3点について報告する。

1)「岐阜県の歯科医療・医業事情」は①直近の約10年間の歯科医療提供関係職種数の推移②歯科医療機関数の推移③受療状況④診療報酬の推移—などの歯科医療、医業環境の現状を報告したい。

2)「医業制度抜本改革」は急激に進む超高齢化と日本経済の低迷による医療保険財政の悪化などへの対応のため、医療制度抜本改革が進められている。平成14年7月27日医療制度関連法案が成立した。今回の改正法の付則には今後の歯科医療、歯科医業に重大な影響を与える項目(①保険者の統合・再編②高齢者医療制度の創設③診療報酬体系の見直し—の3点)が記載されている。今まさに進められている医療保険制度抜本改革は規制緩和の方向で、歯科医療提供のあり方の抜本的な変革が予想されるため、医療保険抜本改革についても触れてみたい。

3)「県歯の目指す方向」は前述の1)の岐阜県の約10年間の歯科医療の推移から将来の岐阜県の歯科医療状況を推測し、2)医療制度抜本改革による歯科医療の変化に対応するための県歯の現在の「かかりつけ歯科医機能」をキーワードとした事業状況を報告する。

座長 関根 一郎教授

2. う蝕への生物学的アプローチ

—感染歯髄保存と難治性感染根管への対応—

新潟大学大学院医歯学総合研究科

口腔生命科学専攻口腔健康科学講座

う蝕学分野 岩久 正明教授

超高齢社会をむかえて、「おいしく食べ、楽しく話す、心豊かな長寿」を全うするためには、長期にわたる有歯顎による咀嚼機能の維持が重要である。そのためには、第一に、従来の「う蝕の早期発見・早期治療」から、「う蝕発症リスクの早期発見・発症の予防」への発想の転換が必要であり、その努力は幼児期からスタートする。現在の科学の進歩は、近い将来にその効率的実現を可能にするであろう。

しかし、一方近年我国では、歯科医療機関の充実とか、う蝕の減少とか言われているが、現実には、放置すればう蝕に至る症例、直ちに治療を必要とする一次